

登録コード	E4683900	開講年度	2026				
授業科目	中等家庭科授業論とその実践				担当教員	JUNG HYOJUNG 他	
英文授業名	Theory and Practice of Teaching Home Economics				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学生	3・4年生
講義室	教育W 5 0 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー							
非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能						
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	中学校「技術・家庭」（家庭分野）および高等学校「家庭」の授業を行う上での基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるため、情報機器等を活用した授業実践を行う。 (本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。)						
(5)授業計画	第 1回：ガイダンス、家庭科の授業実践方法(情報機器を活用した授業の実践例) 第 2回：自分の成長と家族・家庭生活についての授業実践 第 3回：家族・家庭や地域との関わりについての授業実践 第 4回：家族・家庭生活領域の授業実践の振り返り 第 5回：食事の役割と栄養についての授業実践 第 6回：調理と食文化についての授業実践 第 7回：食生活領域の授業実践の振り返り 第 8回：衣服の働きと着方の工夫についての授業実践 第 9回：衣服の手入れについての授業実践 第10回：衣生活領域の授業実践の振り返り 第11回：家族の生活と住空間との関わりと住居の基本的な機能についての授業実践 第12回：家族の安全を考えた住空間の整え方と工夫についての授業実践 第13回：住生活領域の授業実践の振り返り 第14回：まとめ 定期試験、授業アンケートの実施						
(6)成績評価の方法	中学校「技術・家庭」（家庭分野）および高等学校「家庭」における学習目標を達成させるために必要な指導内容、指導方法が十分理解できたか、また、授業実践力を修得できたかを発表およびレポート 50%，他の受講生が発表した授業について相互に評価し学び合う力を授業態度で50%により測り，評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	() 授業の設定が適切であり，() その授業設定の背景を説明できており，() その授業の実践にどのような課題があるのかを指摘できており，() それらの課題に対しての既存の実践例が提示する解決法が適切に把握できており，() その上で自分独自の方法や見解を提示できれば「卓越している」。() から() の5項目は満たしているが質的に不足している場合は「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」とする。						
(8)事前事後学習の内容	授業内容の理解を問う発問を授業冒頭に行う。それに備えるための復習をしてから授業に臨むこと。また，次週までに予習しておくべき箇所を指示する。この授業は，90 時間の学修を必要とする。従って，60 時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・ 授業実践は「中等家庭科教材研究」の授業で開発した教材を活用するため、前期の「中等家庭科教材研究」を履修済みであること。 ・ 家庭科教育コースの学生は，3年次に履修するのが望ましい。 ・ 講義内容を理解するために，授業時間外の学習が必要となる。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談は，随時受け付ける。 (学部窓口教員：山岸明浩 yamaaki@shinshu-u.ac.jp)						
【教科書】	中学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 技術・家庭 家庭分野 自立し共に支え合う生活へ 開隆堂 新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して 東京書籍 新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する 教育図書						
【参考文献】	授業時に適宜紹介する。						